

令和 6 年度の教育活動等に対する学校評価書

学校法人聖公会栄光学園聖マリア幼稚園 園長 福田優美子
学校法人聖公会栄光学園聖マリア幼稚園学校関係者評価委員会

1. 教育目標

【神様の愛の中で共に絆を深め合う】

- 神と人との愛されていることを感謝できる子ども。
- キリスト教保育の基盤の上に一人ひとりの子どもたちがそれぞれの個性を活かし合って共に認め合いながら生活出来るように歩む。
- 命を大切に、また一つひとつを大切に出来る子ども。

2. 本年度取り組んできた重点目標

- 1) お祈りすることや聖書・絵本に触れ合うことで、見えないものを信じる子どもの心に寄り添う。
- 2) 保育する中で園の課題を見つけ皆で共有し園内研修として計画、実行する。
- 3) 自然の不思議さや尊さを様々な環境の中で知る。

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

○お祈り ○聖話 ○多様性 年度初めに定めた下記の取組指標と成果指標を基に年度末に成果を検討した結果は以下の通りである。

評価項目	自己評価			学校関係者評価	
	評価	取組状況	取り組みによる成果	評価	意見
ミッションとして伝えていく事を理解しお祈りや聖書を聞き自分なりに心の修養に努める	A	<ul style="list-style-type: none"> 聖話を聞き新たな学びを獲得するだけでなく日々のお祈りの中で1日1日新しい気持ちで取り組んだ。 聖劇を通して自分たちも演じてみたいという思いを持ち自分の言葉で考えてお祈りすることが増えた。 奏楽が聞こえるとお祈りし心を落ち着けるようになり1日の流れの一部になったと感じた。 	<ul style="list-style-type: none"> 日々のお祈りの中で子どもたちにお祈りしてもらい自然の事や友だちに対して“ありがとう”と感謝を伝える環境を作れた。 パズルなどを通して聖書の物語を知る事ができた。 誕生礼拝のお話で育ててくれた人への感謝の気持ちを持つ事や保育者、親として子どもに向かう気持ちを再確認できた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 聖話やお祈りの時間を通して心の豊かさや優しい気持ちが育っている。それが年長組の聖劇に繋がっていると思う。 ミッション教育の聖マリア幼稚園として大切にしていることを更に大切にしてほしい。 静かにお祈りし自分や周りの人たちと向かい合う“静”的時間のバランスが良く心の教育になっている。
発達の個人差や1人ひとりの生活リズムを把握し丁寧に関わる	A	<ul style="list-style-type: none"> 自分の身の回りの事や少し難しい動作、遊びも毎日繰り返す事で身に付くようにカリキュラムを立てた。 家庭ではすぐに手伝ってもらっていたが自分で出来る事は自分でするように声をかけると「怒られた」と感じる子もいたが、その子のペース“成長”を見て援助するようにした。 療育の先生方に園での様子をみてもらい関わり方の意見交換をする時間を設けた。 	<ul style="list-style-type: none"> 友だち同士のトラブルが目立ったがその都度どうしたら良いかを聞き解決できるよう対応できた。 どの子も大きな成長があり、その子なりに新たな「めあて」を見つけて1人ひとりに関わる事ができた。 言葉のかけ方やその子の思い、配慮の仕方等を知る事ができた。又、その都度確認し職員間で共有する取り組みにも繋がった。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 1人ひとりへの援助の仕方が良く、無理をさせずに子どもを信頼し、ゆっくり待ったり伸び伸びと表現させている様子をみて行き届いた関わり方が感じられた。 1人ひとり成長が違う子に向き合いそれぞれの歩みを大切にしている事が分かり、運動会やクリスマス祝会などでは深い関わりを感じる。
身の回りの自然環境等に目を向け、全てが守られているように準備する	A	<ul style="list-style-type: none"> 大雪を1番身近な自然環境と捉え雪が降り積もるということ、気温が下がると氷ができる等、雪あそびを通して伝えられた。 たくさん雪あそびをする中でその日の雪質によってけがをしないよう声掛けをしたり、冬眠している動物や植物についても絵本を見たり、話し合ったりした。 自然環境の中で危ない場面に遭遇した時ははつきりと言葉で“危ない”と具体的に伝えるようにした。 	<ul style="list-style-type: none"> 例年より雪山が高く硬く、遊び方を職員で話し合いながら計画を立て季節ならではの遊びを楽しめた。 雪あそびの準備、片付け、着替えも自分で行い、正月遊びやおでん屋、お寿司屋への発展した遊びも十分に取り組めた。 神さまが守ってくれる事は勿論だが自分の命も他人の命も大事だという事をその都度伝えていく事ができた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 野菜の収穫にも取り組み、食の大切さや生成（成長）過程も園児と共有している事が分かった。 雪あそびにも積極的に取り組み、人、物、自然、社会を通した取り組み方が良く理解できた。 命を守ること、守られることがこの1年で子どもたちや先生方、保護者の方々それぞれの意識や行動が更に深まったように思う。

4. 総合的な評価結果 (A : 十分に成果があった B : 成果があった C : 少し成果があった D : 成果がなかった)

評価	理由
A	今年は特に防災に重きを置いて専門の方の指導の下、避難訓練や園で計画した訓練を多く実施した。冬期に関しては避難に備え、内履きを履く事を取り入れた。心を育てる教育を継続して絵本を読んだり、聖話や素話を通して思いやりや優しさ等を伝えるように職員間で共有する事ができた。様々な学び課題もあった。

5. 今後の課題と具体的な取り組み方法

来年度への課題	来年度の具体的な取り組み方法
<ul style="list-style-type: none"> 命を守るための関わり 少子化対策 教育内容の充実 	防災について更に継続できるような話し合い、訓練、準備をする。少子化対策を更に考え、園として何をするべきか、何ができるかを共有、対応し教育活動にもつなげていく。